

業種の垣根を越えて 市内農協・商工・漁協青年部の連携

平戸市漁協青年部連合会

平戸市漁協青年部連合会（大石克徳会長、会員四十四名）では、同じふるさとの産業を担う後継者であるJAながさき西海生月・平戸地区青年部（神田全記部長 部員五十名）、平戸市商工会青年部（大久保讓二部長、部員三十四名）、平戸商工会議所青年部（早田圭介会長、会員三十三名）の三団体との連携事業として市内で行われた催事「平戸食彩フェスタ」の中で共同出店（九月二十～二十二日）及び親睦ソフトボール大会（十月四日）を開催しました。



平戸市漁協青年部連合会は、本年の活動の中で地元の異業種後継者との積極的な交流を計画しており、JAながさき西海生月・平戸

材に盛り込んだすり身天を販売しました。イベント期間中は、雨天の影響もありましたが、約一万五千人の集客があり、四団体青年部で出店した屋台も多くのお客さんで賑わい、当初の予想を大幅に上回る収益を上げることができました。得られた収益を財源に十月四日には四団体での親睦ソフトボール大会が平戸ライフカントリーで開催され、爽やかに汗を流しながら、各団体間での交流がはかられました。平戸市漁青連の大石会長は二つの連携活動の感想として「異業種の人たちは、同じ物事に対しても自分たちとは違う見方や考え方を持っているし、イベント経験も豊富で大

変勉強になった。

漁協青年部でも部員の減少が深刻化していく中で異業種との連携は重要で、今後もこのような連携事業を継続していきたい」と話していました。

地区青年部、平戸市商工会青年部、平戸商工会議所青年部の三団体に呼びかけ四団体での座談会を本年一月に開催しました。その中で地域催事への共同出店や親睦ソフトボール大会の開催などの提案が出され、連携事業の第一弾として去る九月二十～二十二日の期間に平戸港交流広場で開催された「平戸食彩フェスタ」(「平戸オランダ年」四百周年記念事業の一環として開催されたもので平戸の旬の素材を活かした創作屋台が出店されるイベント)の中で地元産のタコやイカ、玉ネギを具

